▶アンケート「礼拝について」〈3～2面〉
▶キリスト教教育者物語　〈4面〉
▶2021年度学内教職員研修会講師派遣対象校　〈〃〉
▶教職員就職支援登録について　〈〃〉
▶キリスト教Q＆A　〈〃〉
▶公募、行事予定　〈〃〉

キリスト教学校教育

3

2020・2021年度教研テーマ
キリスト教学校の使命と可能性―いのちの尊さと平和を求めて―

（一社）キリスト教学校教育同盟
〒169―0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電　話　03（6233）8225
ＦＡＸ　03（6233）8226
理事長　西原　廉太
編集人　田村　浩一
頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月１回１５日発行）

2020年度教研全国委員会

2020年12月26日オンラインで開催

新型コロナ禍中での研修のあり方を模索

2020年度教育研究委員会（教研）全国委員会を2020年12月26日、オンラインで開催し、担当理事、事務局長はじめ14名の委員が参加した。事前に送ったアンケートには22名の委員から回答をいただいた。

20年度は、コロナ禍で多くの研修会、研究会さらに事務職員夏期学校が中止となった。その中でも対面やオンラインで開催した研修会があり、課題の共有と次年度の計画で留意すべきことについて分かち合うことができた。

20年度に実施した研修会は、①対面型②オンライン型③混成型（ハイブリッド型）に分けられる。

①対面型は、感染症対策を施した上で実施したが、これは直接話し合うことの大切さを重視したためである。

②オンライン型は、移動することなく、講演や研修に参加できる利点がある。特に、関東地区聖書科研究集会はオンライン形式により参加者が増加した。また、教職員志願者ガイダンスについては、オンライン限定動画配信の形を取ったところ視聴回数が増加したが、これは受講生が自分の事情に合わせて視聴できると共に繰り返し視聴できる利点によることが紹介された。

③混成型（ハイブリッド型）は、対面を実施するが同時にオンラインでも聞くことができるようにする、文字通りhybrid（混成）でそれぞれの良さを取り入れたものである。

このような話し合いをしているうちに、できるならば、リトリートやカウンセリング研修等は対面型で、講演や研究性の強い会はオンライン型が望ましいとの方向性が示された。

21年度の計画については、コロナが収まればよいが、収まらない場合を想定して準備を進めることとした。各部会とも、できるだけ中止としないで、オンラインの開催など何らかの形で実施したいとのことである。但し、オンライン研修会は長時間では参加しているが方々が疲れるため、できるだけコンパクトにした内容や遠隔研修でも成果が上がる方法を追求しなければならないとの指摘がなされた。

その他、テーマについてはコロナ禍がもたらした人と人とのディスタンスのあり方とそれに伴う種々の社会問題はキリスト教学校の使命と可能性を改めて見直す契機でありその点を加味してテーマを掘り下げたい、コロナ禍の中で各校が新たに取り組んだ礼拝の形式、宗教行事、アイディア等を出し合うことも大切ではないかとの意見も出された。

〈明治学院学院長、教育同盟教研担当常任理事〉　小暮修也

加盟校動静

関根秀和氏（前大阪女学院理事長、前大学・短期大学学長）

1月9日逝去、83歳。前夜式及び葬儀は近親者のみにて執り行われた。謹んで哀悼の意を表します。

2月13日発生の東日本大震災余震について

2月13日（土）午後11時過ぎに、宮城県・福島県に震度6強をもたらした東日本大震災余震が発生した。両県の加盟校の情報で、学生・生徒の一部にガラス等による怪我があったこと、施設・設備面で被害があった（外壁・内装の剥がれ・亀裂、天井板のずれ、オルガンのパイプのずれ、ガラス破損・漏水、PC・資料の落下等）。

2月15日は一部で休校したが、16日からは各校とも授業を行っている。

被災された方々、加盟校に心からお見舞いを申し上げます。

※21年度学内教職員研修会講師派遣対象校を4面に掲載しています。

キリスト教学校の使命

中島昭子

波乱と不安に満ちた2020年度が終わろうとしています。全国一斉休校と緊急事態宣言で始まった年度、各学校の学びも行事も、礼拝も修養会も、キリスト教学校教育同盟の会議や研修も、予定通りに実施できたものはありませんでした。

感染症防止対策の徹底と児童・生徒・学生と学校とをつなげる様々な方法を懸命に考え、礼拝や学び、その他の活動の継続を図った教職員の皆様のご努力に心からの敬意を表したいと思います。また、東日本大震災から10年の歳月が過ぎたことを覚え、今も深い痛みを覚えている方々にお見舞いを申し上げます。

この一年特に心が痛んだのは、日本でも世界でも差別、誹謗中傷、蔑視とされる言動についての報道でした。皆様の学校でも、こうした現実が、聖書の愛と平和から遠いものとして、礼拝で語られたのではないでしょうか。

19世紀に来日したアメリカ人宣教師、捜真女学校第2代校長クララ・カンヴァースは、「キリスト教学校は伝道をしなければなりません」という言葉を残しています。それはキリスト教学校で知識や技術を学ぶ者の心に福音の種を蒔き、御言葉を軸に隣人愛と平和の実現を大きな目標に掲げて社会に貢献し、希望をもって生き抜く人を育てるという、学校としての伝道です。こうした学校の伝道は、時代や地域を超えて、日本のキリスト教学校に託された共通の使命であると感じています。

20年程前のことです。フランスの公立小学校で校長先生から次のような話を聞きました。「子どもたちがけんかをするのは悪いことではありません。話し合いでの解決を教えるよい機会だからです。しかし、原因が、人種、民族、国籍、宗教、言語、性別、出身地や居住地、病気、身体的特徴、親の職業・財産・学歴などであるなら厳しく指導します。それは差別を生むからです」と。自由と平等を大切にしたいと考えている国らしい話です。この時、あらゆる差別が平和の障壁となることを、キリスト教学校が積極的に言語化して発信する必要があると改めて思いました。

社会が混乱すると真に大切なものを忘れそうになります。新型コロナウイルス感染症による不安は残念ながら2021年度も続きそうです。しかし、「平和の神はあなたがたと共におられます」（フィリピの信徒への手紙4章9節）に励まされ、コロナ後を見据えて、キリストを礎とする同盟各校のさらなる協力と連携の可能性をご一緒に模索してまいりたいと考えます。

〈捜真学院学院長、教育同盟理事〉

聖書のことば

泉川道子

「ペトロは、『鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう』と言われたイエスの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた」
（マタイによる福音書26章75節）

ペトロはなぜ泣いたのでしょうか？その理由は聖書には書かれていません。ペトロが泣いたわずか数時間前にペトロとイエス様の間にはこんな会話がなされていました。

イエス「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく。（略）」ペトロ「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。」

この時のペトロの気持ちを代弁するとすれば、「先生は何を言っているのだ。今まで3年間、ガリラヤ湖で出会ったその時から、私は先生と苦楽を共にし、様々な体験を通して先生にお仕えしてきた。先生のことを一番尊敬しているのも、一番愛しているのも、この私だ。こんな私が先生につまずく訳がないではないか。」こんな感じでしょうか。

それなのに先生は「みんながつまずいてもわたしは違う」と言ったペトロに、さらに追い討ちをかけます。「（略）あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」これを聞いてきっとペトロはさらに腹をたて、以下のように言い放ちます。「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」

皆さんは同じような経験はありませんか？わたしも良く使ってしまう、「絶対」と言う言葉を用いて「わたしは『絶対』○○する」。とか逆に「『絶対』○○しない」、とか？兎にも角にも、そのペトロの言う「御一緒に死なねばならなくなっても」と言う状況はペトロがその言葉を口にした数時間後にやってきたのです。そしてペトロが呪いの言葉さえ口にしながら、「そんな人は知らない。」と誓い始めて鶏が鳴いた時、ペトロは全く逆の状況で、全く同じように腹をたてていた自分を思い出し、思い込みですぐに腹をたててしまう自分をイエス様はご存知で、こんな裏切り者の自分をすでに許してくださっていた、そのことに気づいたのです。人間の思いは浅はかです。状況により、簡単に変化します。その「人」の心の移ろいをイエス様は全てご存知で、あえて赦し、受け入れてくださっているのです。だから私たちは自分を責めずに赦されているものとして神に仕え、人と人との間で生きていくことができるのです。

今年も四旬節の季節がやってきました。イエス様に共に赦されているものとして喜びつつ日々を歩みましょう。

〈愛農学園農業高等学校教頭〉

一般社団法人キリスト教学校教育同盟
「eラーニングによる教員免許状更新講習」について

・いつでも、どこでもインターネットで受講が可能です。
・キリスト教学校教育を土台とした講座です。
・21年度申込受付＝2月16日～22年3月30日
・受講開始＝4月16日

詳細は教育同盟ホームページかQRコードよりご覧ください。

一般社団法人キリスト教学校教育同盟
2021年度「キリスト教学校教育振興助成」の募集について

キリスト教学校教育を推進する研修・研究等への助成制度です。要項・申請書等詳細は教育同盟ホームページ（トップページ「お知らせ」）に3月中旬頃掲載します。

助成金＝総額300万円
助成先選考日程（予定）
4月5日（月）募集開始
6月12日（土）締め切り
7月6日（火）助成先発表

（３面よりつづく）

も他者と関わり、自らを見つめる時間として親しんで欲しい」、「キリスト教に初めて触れる学生たちにも分かりやすい内容で、学生たちの生き方や人生に影響を与えられるような内容が好ましい」、「学生礼拝は、建学の精神であるキリスト教精神、特に「愛と奉仕の精神」を継承するための大切な場なので、学生一人一人にとってより身近で静かな祈りのひと時となるように配慮しています」、「このような時だからこそ、これまで守られてきた礼拝の形をまずは中心に置くべきと考えます」、「会衆賛美の重要性に気付かされました。学校礼拝においては、『歌う』ことによる連帯が何よりも重要なのかもしれません」、「神の愛を知って自らと他者の価値を知り、人と共に生きて行く重要性を学ぶために、礼拝は学生にとって大きな意味を持つと考える。スケジュールに追われ、毎日の授業や課題をこなすだけで精一杯である学生には、立ち止まって人生の意味を考える時間がぜひとも必要であり、礼拝はその役割を果たしている」、「礼拝はキリスト教学校が最も大事にしているものであり、学校が建学の精神、キリスト教の精神を伝えるかけがえのない業であると考えている」。

設問３　オンラインと対面での礼拝について

オンライン／放送礼拝を行ってみて、これまでの対面での礼拝とくらべて、感じたこと、気づかされたこと、その中でできたこと／できなかったことなど、オンラインと対面での礼拝両方のご経験から自由にお書きください。行っていない学校は、対面での礼拝の大切さや意義、オンライン礼拝に対する思いや、もし行うなら ばこうありたいなど自由にお書きください。

＜小学校（小中一貫含む）＞

オンライン礼拝の様子は、集中力が続いていないようで、テレビ感覚で参加しているようにも思える。空間が変わらないため、礼拝への気持ちの切り替え、心の準備が難しいと感じる。話し手も、子どもたちの反応や表情が見えず、やりにくい。準備や機器の不具合への不安など、突然のネット環境トラブル、時間差で声がずれるなど一体感が得られない。一方、低学年で聖書を開くのに時間がかかるが、一時停止して共にみ言葉を味わうことができることや、家庭礼拝で保護者が礼拝に参加するようになったことなど、利点もある。オンラインでも、大切なのは礼拝に対する想い、共に祈りを合わせること。逆に、説教を聞くには良いが、讃美や祈りといった宗教的な体験をすることには適さないので、実施していないという意見もある。

対面の礼拝ができなくなって、これまで礼拝を通して学校全体の繋がりを感じられていたことに気づかされる。チャペルでの生の声が聴きたい。チャペルでの礼拝を求めていかなくては、子どもの心は育たない。全員でなくても、少人数でもいいので、生礼拝を目指したい。チャペルよりも大きな体育館で、全校礼拝を行うように変更した。対面での礼拝の良さを再確認している。

＜中学校・高等学校（小中高一貫、特別支援学校含む）＞

休校期間中に自宅にいる生徒に向けて特に礼拝の配信をしなかった学校もあるが、録画又はライブでオンライン礼拝をしていた学校も少なくない。学校再開になってからは大勢が集まることができないために教室への映像中継又は放送で礼拝を守る学校が多く見られた。そうした事態にあって、対面での礼拝にあった「空間と時間両方の共有」が実現できていないこと、聖書を読み語る教員から礼拝する生徒の顔が見えないこと等の不十分さを感じている。礼拝する場所に集えない聖性の欠如を「群れ全体で呼吸する感覚がなくなった」と表現された方もいた。他に替え難い「礼拝する場所」を各校がそれぞれの思いで持っていることが窺えた。

遠隔での礼拝の守り方には苦労の声がある一方で、気付かされたことも記されていた。オンラインの礼拝を自宅で守る生徒たちに加えて、保護者や卒業生も礼拝に加わることができた学校がある。どうせ遠隔ならと遠く海外在住の方の奨励(説教)を聴くことができた学校もある。作り込み過ぎた録画の礼拝はリアリティがないとの指摘がある一方で、録画配信であればこそ繰り返しメッセージを聴いたり、他者に紹介することができる利点もあるとのこと。私たちキリスト教学校の最もコアの部分の学校礼拝が広く知られる可能性に満ちているとも言える。校内での教室礼拝では却って生徒の礼拝姿勢が間近に分かる、聴くことに集中する放送礼拝も意義があるとの声もあった。

＜大学（法人含む）＞

回答者の率直な想いとしては、対面での礼拝を待望する声の方が多い印象を受けた。それぞれの学校の設置母体となっている、キリスト教諸派の礼拝観の違いにも拠るが、概ね、チャペル（礼拝堂）の持つ独自の空間性であったり、そこに心身を委ねることの豊かであったり、礼拝は経験するもの、分かち合われるものであって、それらはオンラインでの礼拝ではなかなか体感できない対面での礼拝の固有性である、との意見が多く見受けられた。その他のオンラインでの礼拝への消極的な評価としては、「学生の表情が見えず」、「語り手の言葉が届いているのか反応が判らない」、「メッセージが伝わっているか不安」、「賛美歌をはじめ礼拝音楽がない」などとの感想が散見された。一方で、「遠方や海外からのゲストスピーカーを招くことができた」、「時間と場所に制約されない」ため、「いつもなら参加できない教職員の参加が多くあった」、「卒業生や学外の人、学生の家族の参加もあった」との、オンラインでの礼拝を積極的に評価する意見も相当数あった。また、受信する学生の通信環境や、配信する学校側の動画制作や配信にあたっての技術的な課題を実感している学校が多くあることも判った。他には「礼拝の本質について考える良い機会になった」、「礼拝を共に守ることの大切さを再認識した」などの意見、加えて、「メッセージを語る者としての言葉に対する責任性」について、大切に留めておきたい意見もあった。

設問４　これからのキリスト教学校としての礼拝

今のような制約の中で、キリスト教学校はどのような礼拝を持つことが望ましいとお思いでしょうか。ウィズ・コロナの中、これからの学校での礼拝について自由にお書きください。

＜小学校（小中一貫含む）＞

厳しい状況ではあるが、対面礼拝と讃美歌を歌うことについて、模索を続けたい。小学校でキリスト教の生活が心に染みるのは、礼拝あってこそ。特に、オルガンの音色、讃美歌の歌声。オンラインはＰＣ弱者に厳しいことになり、教育の不平等になりかねない。

今、このような状況だからこそ、気づくことも多々ある。様々な試練と苦難を乗り越えて、今がある。希望を与えるメッセージはとても重要。今だからこそ、語れる言葉があると思う。イエスさまの愛と希望を語り続けていかなければならない。他者のために祈り続けること、神さまがいつも共にいてくださることを覚えて、学校生活の中心に礼拝があることを感じられるようにしたい。

この経験から、他のキリスト教学校と共に礼拝を捧げたり、祈ったりということも可能になる。また、世界のキリスト教学校との祈祷会や礼拝もできそうです。どのような形でも礼拝できることに感謝している。

＜中学校・高等学校（小中高一貫、特別支援学校含む）＞

学校での礼拝は対面が基本であるが、コロナ禍であるがゆえに、「礼拝の意義」を各自が自覚し「どのような状況でも」、また「その形式はどうであろうと」、「礼拝を守りたい」との意見が多数を占めた。生徒・教師らの感染予防上、通常の礼拝ができない状況では校内放送、ネット配信など可能な代替の方法をとるしかなく、手段（メディア）の特性を見極めつつ礼拝を続けていきたい。これまで讃美歌を歌い、チャペルで一堂に会し、場所と時間を共有できた礼拝の「恵み」を回顧し、感謝する意見が多くみられた。さらに、この制約に満ちた時期に「礼拝」の在り方、その意味をキリスト教学校、教職員は問われていること、「体験」としての礼拝、「聖書」が語られること、「賛美」すること、生徒、教員が「祈る」こと、それらが行われる空間と時間が学校での礼拝であるとの再確認が目立った。これらは探求であり、それを通して生徒に寄り添い、共に希望を見出していきたいとの意見もあった。

礼拝形式については、必要と状況に応じ、今現在可能で継続できる形式を目指すという柔軟な考えが大勢を占めた。そのために学校が一致して工夫と労力を注ぎ、取り組むことが課題として指摘された。職種別の回答者の意見の相違は見当たらなかった。

＜大学（法人含む）＞

キリスト教学校として、礼拝は「人間関係を形成する場」、「仲間がいることを感じる場」、「建学の精神を学ぶための最も重要な時間」との理解があり、各校に共通して、教学運営の中心には礼拝が位置しており、どのような時でも「礼拝を止めるべきではない」との想いが、このアンケートからは見て取れる。ただ、礼拝の形としては、やはり「対面での礼拝を継続したい」との意見が多くあった。対面での礼拝を守るための工夫としては、感染対策の徹底をはじめ、「曜日を分け、出席人数を分散して少人数」で行うなどの提言もあった。一方で、「コロナ禍にあっては、対面とオンライン双方のハイブリットでの礼拝が現実なのではないか」との意見がそれ以上にあった。オンラインでの礼拝では、学生たちが視聴したくなるような礼拝の持ち方や礼拝時間そのものの工夫、説教者自身の「伝わる言葉」の探求、礼拝の「見せ方」などについて言及する意見もあった。また、対面とオンラインのみにこだわらず、時宜に適った礼拝の形を、その時折に模索する必要があるのではないか、そこに加えて、「誌面」による礼拝を示唆する意見があり、誌面での礼拝が果たして、どのような形の礼拝なのか、非常に興味深かった。オンラインでの礼拝が、単に対面での礼拝の代替ではなく、その礼拝自体が豊かさを持つ可能性があること、オンラインでの礼拝のメリットを最大限に生かすべきとの意見もあった。

※学校名、回答者名を不掲載、固有名詞等一部編集の上、回答一覧を下記に掲載しています。

https://bit.ly/2ZnvrJy

アンケート集計　礼拝について

日本のほとんどの学校が経験し、乗り越えてきた2020年３月からの新型コロナウイルス感染症による全国一斉の休校、そして段階的な再開。誰にとっても初めてのことで、それぞれの学校がその地域や児童生徒の学齢、また学校それぞれの考え方や歴史、文化などによりさまざまな対応を行ってきました。そしてこのことは、あらためて授業や教育、学校の在り方までを考える機会となりました。

その中でキリスト教学校では日々の学びだけでなく、学校の土台となる礼拝をどうするかという課題とも向き合い、各校それぞれに考え、悩み、対応してきました。

そのような各校での対応やお考えなどを集めて、あらためてキリスト教学校の礼拝について考える機会としたいという声から今回のアンケート実施となりました。

アンケートは①礼拝を実際どのように行ったか　②礼拝そのものについての考え　③対面/オンライン礼拝をどう考えるか　④これからの礼拝　という４つのテーマにしぼり、全国のキリスト教学校のあらゆる立場の方々から現状やお考えなど貴重な情報をお寄せ頂きました。

昨年の12月10日から今年１月15日までという限られた期間でしたが、全国のキリスト教学校111校から132件のご回答があり、それぞれのテーマでも小学校から大学までの対応や考え、そして職種からもその見方が多種集まり、とても興味深いアンケート結果となりました。

ぜひご自分と同じ各学校種から、また異なる学校の視点から、全国のキリスト教学校の今の思いをお読み頂き、またこれからのキリスト教学校の在り方について、考える機会となれば幸いです。　（広報委員会）

回答者学校種別

小学校	24
中学校	4
高等学校	12
中高一貫／併設校	49
短大	4
大学／大学院	33
法人	3
特別支援学校	1
小中高一貫	1
小中学校	1
合計	132

回答者職種

教員	34
事務職	7
チャプレン／宗教主任	53
校長	20
副校長／教頭	9
学長	5
教員・宗教センター長	1
学院宗教部長	1
チャプレン・教員	1
キリスト教教育運営課長	1
合計	132

＜回答のまとめ＞

設問１　現在の礼拝の形について
現在学校ではどのような礼拝を行っているでしょうか。今に至るまで段階的な経緯がありましたら、そちらもお書きください。

＜小学校（小中一貫含む）＞

年度始めから６月まで、オンラインによる自宅学習の時は、Zoomなどの配信礼拝を実施し、その後分散登校になって、チャペル（講堂）から教室へ映像配信。現在は、１学年ずつチャペルで他の学年は教室に映像配信で全校礼拝を守る。或いは、クラス礼拝を主に行う、現在もチャペルでは礼拝を捧げずに、配信礼拝を各教室で参加している。

讃美歌は、マスクをして小声でという形を徹底している。歌わない。心の中で歌う。音楽専科がマスクをして歌う。司会者のみが歌う。

＜中学校・高等学校（小中高一貫、特別支援学校含む）＞

４月からの緊急事態宣言下では、多くの学校では動画配信や礼拝の次第のプリント配信による礼拝を行っていた。また、礼拝堂（チャペル）からのオンライン礼拝を行っている学校もあった。

緊急事態宣言が明けてからは、登校形態が学校によりさまざまで、それに合わせた礼拝の形を多くの学校が模索してきた様子がうかがえた。例えば、それまでの動画などの配信をそのまま続行する形（特に感染を恐れて学校に来られない生徒対応）、オンライン礼拝に教室で参加する形、礼拝堂（チャペル）でディスタンスをしっかりとって学年ごとなど別々に順繰りに参加し他の学年は教室で放送礼拝という形、あるいは時間を短くして普段通りの礼拝を続ける形など、学校の事情に合わせた工夫や苦労がうかがえた。

また、聖歌や讃美歌の奉唱は、断念している学校が多かったが、中にはある時期から一節だけ歌うことを始めているという学校も一定数あった。さらに歌い始めることにしたが、小声で歌うことにしている学校もあった。

１月の再度の緊急事態宣言下では、宣言を出されている地域とそうでない地域では当然対応が違ってきているが、宣言を出されている地域の学校では１回目の宣言下での礼拝方法に近い形に戻しているところも多々あった。全体としては、昨年の緊急事態宣言下と同様、礼拝方法は学校によってさまざまで、学校の実情、地域の実情に合わせて弾力的な運用も含め、試行錯誤が続いている。

＜大学（法人含む）＞

2020年春学期は学生のキャンパス入構制限により大学礼拝をZoomやYouTubeを用いてオンデマンド配信とする大学がほとんどであった。讃美歌の省略など礼拝形式も簡素化され、礼拝時間を短縮して動画配信がなされるケースが多かった。秋学期は多くの大学で対面授業が再開され、それに合わせて礼拝を対面で行った大学が多数を占めた。礼拝堂の換気、消毒、マスクの着用、座席の間隔をあけるなど感染対策を十分に講じたうえで大学礼拝が行われた。礼拝の回数としては、以前通り毎日礼拝を行っている大学もあれば、回数を減らし人数制限をした上で礼拝を行っているところもある。わずかではあるものの、三密の回避が困難との理由から、礼拝をとりやめている大学もあった。またチャプレンのみで祈りの礼拝の時をもっている大学もあった。

設問２　礼拝についての考え
学校で礼拝を行う上で、どのようなことが大切だと思われるでしょうか（場所、参加者、内容など）。

＜小学校（小中一貫含む）＞

- どんな形式であっても、毎日礼拝の時間があるということ。
- 毎日、み言葉とお祈りが子どもたちの心に届くということ。
- 静かに神様と向き合うことができること。
- 讃美歌を歌えない、一同にチャペルに集えなくても、お話しを聞き、お祈りができ、神さまとの対話の時間をもつことが大切。
- 休校の際はメールで礼拝メッセージを送り、現在は放送礼拝を続けている。
- 休校期間から、保護者にも礼拝を公開しているが、今も継続している。
- 讃美と祈りを主体的に行うことができる環境を追求していくのは、キリスト教学校の義務であると考える。
- どのような場所であっても、どんな人数であっても礼拝はできる。
- 換気とソーシャルディスタンス。ホールの席を一つおきに座る。

＜中学校・高等学校（小中高一貫、特別支援学校含む）＞

質問が、コロナ禍に特化しての礼拝のあり方か、あるいは礼拝そのものの本質かが明確に示されていなかったため、両方の回答が寄せられた。

コロナ禍での礼拝に関しては、どんな形であれ毎日続けること、コロナ対策をしっかりすること、これまで大切にしてきた形を崩さないこと、より良い礼拝にするための模索をしてゆく機会、等を大切にしているといった回答があった。

礼拝そのものの本質に関しては、皆で同じ場所に同じ時間に集まり同じ話を聞くこと、聖書の言葉に耳を傾けると同時に自分に向きあうこと、神様について考え神様に心を向けること、沈黙・静謐の時を持つこと、聖書を読み続けること、本質のメッセージが明確であること、それぞれが神様に招かれた掛け替えのない存在であることを理解すること、チャペルや信仰を大切にしている人がいることに敬意を払うことを学ぶこと、大きな声で共に讃美すること、声を合わせて祈ること、皆で聖歌を歌うこと、呼びかけられ応答すること、教会ではなく学校教育の場としての礼拝を作ること、チャペルでなくどんな場所・時でもどんな方法・形であっても神様の前に立ち共に捧げる者としてあること、教師・生徒の礼拝に対する姿勢、等を大切にしているといった回答があった。

どちらの回答にしても、神と自分と向き合い、聖書のみ言葉に耳を傾ける場と時間を、学校教育という場で継続して守ることを大切にしている点が、多くの学校で共通していた。

＜大学（法人含む）＞

キリスト教主義を掲げる大学として大学礼拝は学生、特に新入生にとって建学の精神を理解する重要な時と場となるという意見が共通して多数を占めた。以下、大学礼拝についての考えをいくつか紹介する。「信仰を持たない学生に

（２面につづく）

キリスト教教育者物語 ⑧⓪

新しい時代の期待を一身に背負って

香蘭女学校 長谷川喜多子教頭

長谷川喜多子先生は1872年生まれ。桜井女学校（女子学院の前身）に入学。87年に卒業し母校の教員に就任。その後、女学校の下級生で後の女子学院院長三谷民子先生と一緒に高田女学校に転任しました。三谷先生とは生涯の親友となります。96年、東京に戻り東京女学館高等女学科に赴任、この頃オックスフォード大学へ留学もし、1906年夏から翌年11月までは英国の婦人教育事業の視察もしています。

18年頃、香蘭女学校に奉職。女子教育の第一人者として赴任した長谷川先生はすぐに教頭となり、授業は英語と聖書を担当、女子補導団東京第一組という日本のガールスカウト発祥の学校の教頭としてその活動にも協力を惜しみませんでした。

世界最古の女性平和団体「婦人国際平和自由連盟」のワシントンでの第4回国際会議に出席し、香蘭女学校の教頭であると同時に日本の女性運動のトップに立っていました。

25年3月、欧米訪問から帰国して数日後の25日、病を得て現職の教頭のまま急逝。卒業生は「長谷川先生は全くステキの一言につきる香蘭のホープでいらっしゃいましたが私共卒業を前にして欧洲に於ける婦人会議に我が国代表として御出席され御帰朝後数日にして急逝された事は生徒一同にはこの上ない失望でございました。のみならず香蘭の為には一大損失でございました。」などと回想しています。

香蘭女学校の教頭として、また日本の女性平和国際運動の旗手として多くの女性たちから多大な期待を寄せられ、それに力強く応え全力疾走で駆け抜けた生涯でした。

田村浩一
〈香蘭女学校中等科・高等科教諭、キリスト教センター委員〉

2021年度キリスト教学校教職員就職支援登録について

教育同盟では、キリスト教学校で働くことに使命を感じて就職を希望する方のために「2021年度キリスト教学校教職員支援の登録」の受付を始めます。詳しくはホームページ「教職員を目指す方へ」→「教職員就職支援登録について」をご覧ください。

公募

▽**東北学院大学**
▼文学部総合人文学科
職種＝①音楽学②キリスト教教育学③キリスト教史　教授、准教授、講師又は助教各1名
採用予定日＝22年4月1日
応募締切＝4月30日
問合せ＝kawashima@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

▽**関西学院大学**
▼教育学部
職種＝史学　教授、准教授又は助教1名
採用予定日＝22年4月1日
応募締切＝3月14日
問合せ＝☎0798-54-6503

▽**広島女学院大学**
▼人間生活学部児童教育学科
職種＝体育科教育他　准教授又は専任講師1名
採用予定日＝9月17日
応募締切＝3月15日
問合せ＝☎082-228-0386

▽**福岡女学院大学**
▼国際キャリア学部国際英語学科
職種＝①英語学・応用言語学分野②社会言語学・応用言語学分野　教授、准教授又は講師各1名
採用予定日＝10月1日
応募締切＝4月30日
問合せ＝☎092-575-2871

▽**活水女子大学**
▼教職課程
職種＝①教育方法学分野②教育心理学分野　教授、准教授、講師又は助教1名
採用予定日＝①9月1日②22年4月1日
応募締切＝①4月16日②5月31日
問合せ＝☎095-820-6041

▽**女子聖学院中学校・高等学校**
職種＝美術科非常勤講師1名
採用予定日＝9月1日
応募締切＝5月31日
問合せ＝☎03-3917-2277

▽**清和女子中学校・高等学校**
職種＝保健体育科、情報科　専任講師各1名
採用予定日＝4月1日
応募締切＝3月31日
問合せ＝☎088-863-1200

▽**青山学院**
職種＝専任事務職員（総合職※新卒）6～10名（予定）
採用予定日＝22年4月1日
応募締切＝5月5日
問合せ＝☎03-3409-6469

2021年度 学内教職員研修会講師派遣対象校選考結果

法人・校名	研修人数	希望テーマ
茨城キリスト教学園	150	キリスト教教育の担い手として —建学の理念を業務に活かす—
共愛学園	40	キリスト教主義学校に勤める意義について
清和女子中高等学校	25	特別支援
平和学園	100	グローカルな視点で、21世紀のキリスト教教育を考える

事務局だより

厳しい寒波の冬から、寒暖を繰り返す早春へと季節は移りました。コロナの終息は見えませんが、距離を取ること、手洗い、マスク、静食、ワクチンなどの対策は有効です。世界が仲間として立ち向かい、一日も早くコロナ禍が鎮まる日を待ち望みます。

東日本大震災から10年の今年。自然災害、人災、パンデミック禍が続く中、キリスト教学校はどう応え、何を発信するのか？今号の礼拝アンケート記事の他、今後の集会・研修会での課題でもあると思います。

オンライン研修会を含む2021年度全国行事予定は下記の通り確定しました。ふるってご参加下さい。感染状況による変更がありましたらHPで随時お知らせします。

会いたい人と安心して会える日は何時やってくるのか。3月でご退職の皆様に十分な送別の時はとねぎらいの気持ちを捧げます。

事務局長

<行事予定>
※現時点での11月までの決定分のみを掲載しています。
オンライン併用、オンラインのみの場合もあります。

6／4～5　第109回定時総会（桃山学院昭和町キャンパス、オンライン併用）
19　第66回東日本小学校教職員協議会（関東学院六浦小学校）
7／17　第65回事務職員夏期学校（オンライン）
30　第8回西日本小学校教職員協議会（西南学院小学校）
8／3　第8回中堅教員リトリート（同志社びわこリトリートセンター）
5　第6回全国災害支援連絡会議（仙台、南三陸）
14～17　教員リフレッシュ合宿（奈良県洞川温泉）
17～19　第54回全国聖書科研究集会　（鎮西学院高校）
24　第7回全国事務局長、事務長会議（東北学院）
25～26　第11回中堅事務職員リトリート（同志社大学今出川キャンパス）
27　第8回大学新任教員研修会（オンライン）
9／7～8　第65回大学部会研究集会（敬和学園大学）
11　キリスト教活動事務職員研修会（オンライン）
16～17　第63回中高研究集会（関東学院六浦中学校・高等学校）
11／5～6　第63回学校代表者協議会（フェリス女学院山手キャンパス）
29　中小規模学校法人の連携協力検討プロジェクト（立教大学）

キリスト教Q&A

—キリスト教の理解を深めるために—

上野峻一
（明治学院高等学校聖書科教諭）

もし、今「踏み絵」があったら、踏みますか？

A：踏めますが、踏みません……たぶん。

この問いは、聖書科の教師だけでなく、社会科や他教科のクリスチャンの教師であっても、一度は経験があるかもしれません。戦国時代、鉄砲の伝来と共に、ローマ・カトリック教会の宣教師たちがやってきたことは、小学生でも知っています。子どもたちにとって、フランシスコ・ザビエルや江戸時代のキリシタン禁制、絵踏というのは、キリスト教と結びついている非常に印象深いものです。その現代の当事者とも言えるクリスチャンや教会の牧師、聖書の先生というのは、生徒にとっては興味や関心のかっこうの的となります。

数年前、キリシタンについて高校生に授業をすることがありました。今回は、そこで生徒から問われた質問とその時の答えを記しました。教室で「踏めるけど、踏まない」と力説した後、よく考えて「たぶん」と言った瞬間に「ふん、やっぱり」と生徒の冷たい視線を浴びたことは覚えています。しかし、それでも牧師として、教会の中にいる弱い人のために「踏まない」と言った覚悟は、何とか届いたようでした。

伝道者パウロは、コリントの信徒への手紙一第8章の「偶像に供えられた肉」の議論の中で弱い人を重んじて、自らの行動を決定しています。キリストにあって真に自由であるからこそ、弱い人を躓かせないための言動が問われているのです。ここでの弱い人々とは、目に見える行動や規則によって、信仰が揺さぶられてしまう人です。

実は「踏み絵を踏むかどうか」という生徒の問いは、「本気で信じているかどうか」と言い換えられます。もちろん、踏み絵を踏んでも踏まなくても、どちらが正解とは言えません。例えば、マルティン・ルターの信仰義認や遠藤周作の『沈黙』の結論からすれば、やはり踏んでも構わないとも回答できます。けれども、大事なことは、質問した生徒に対して、どのように向き合うか、知識の先にある出来事ではないでしょうか。

教育においては「できるけど、しない」ことにも意味を見出します。それは、愛するがゆえに「敢えて」しないことが、時に大切であるからです。また同時に、忘れてはならないのは、どのような人間であっても「弱さ」があり、不完全な者であるということです。それゆえ、人は何があっても「絶対」とは言えません。しかし、日本には、命をかけて「信じること」を貫き通したキリシタンや宣教師が確かにいました。その日本のキリスト教学校だからこそ、後世に伝えなければならないものがあります。